



Natural Sound Stereo Power Amplifier

101M

取扱説明書



ご使用前に必ずお読みください。

このたびは、YAMAHA STEREO POWER AMPLIFIER 101Mをお
買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

101MはNATURAL SOUNDを追求しつづけるYAMAHAが完成した超
高級ステレオ/モノラル切換え式パワーアンプです。

101Mの優れた性能を十分に発揮させると共に、長年支障なくご使用いた
だくために、この取扱説明書をぜひお読みくださいますようお願いいたします。

〈特 長〉

■強力電源部とZDR回路による、STEREOで500W/ch(8Ω)、

BTLで1500W/ch(8Ω)のハイパワー、ハイクオリティアンプ

- ハイパワーアンプには、大出力にみあう強力な電源部が重要になってきます。101Mの電源部への入口である電源コードには、無酸素銅を使用した超低インピーダンスコードを採用。導体断面積は、通常の電源コードの3倍の5.5mm²もあり、しかも各ch独立しています。

- メイントランスは、高品質オリエントコアを使用した無酸素銅巻線とし、単体重量は実に10kg、両chでは20kgと大型のものを採用。

さらに、パワー段用のケミコンは各chあたり150,000 μ Fにもなり、超低域にいたるまで大電力供給を可能にしました。

- パワートランジスターは、Pc200Wと大容量で、信頼性の高いメタルキャンケース入りを20個/ch使用という豪華仕様になっています。

- パワー段の配線には、両面スルーホールガラスエポキシ基板や純銅アスパー、さらに無酸素銅を使用した配線材を使用するなど、全てのパーツに高耐久性、高信頼性のハイクオリティパーツをぜひたくに使用しています。

- また、パワー段での歪をゼロにするZDR（ゼロ歪回路）を搭載し、500W/ch(8Ω)の大出力を0.003%の低歪率で達成。ハイパワーとハイクオリティを高度にクリアしました。

■完全ツインモノラルコンストラクション設計

電源コードを含めて、完全ツインモノラル左右対称コンストラクションを徹底。全体の構成も、微小電力部は上部に、大電力部は下部に設置。さらに信号の流れも、フロントパネル側からリヤパネル方向へ流れるという合理的設計。

A・Bアンプは特性的にも音質的にも全く同等でありながら、相互干渉は極少におさえています。

■プロユースにも対応した高信頼度設計

オーディオアンプの精密かつ低歪率と、スタジオモニターアンプの大出力かつ信頼性を高度に両立させた、高信頼度設計です。インプット端子には、通常のピンジャック入力に加えて、キャノンコネクターによる平衡入力も備えるなど、オーディオアンプ、プロ用アンプを共に手掛け、共にトップレベルにあるヤマハのトータルアンプ技術を結集したスーパーパワーアンプです。

■その他

- 電源投入時のラッシュカレントを、小パワーアンプなみに抑えるインラッシュ防止回路。
 - CLIP インジケーター付き高精度大型 PEAK LEVEL メーター。
 - ピンジャック、キャノンコネクター（オス/メス）計3系統の入力端子、新開発圧着式SPEAKERターミナル。
 - 万全な保護回路の装備。
- など数々の特長をもっています。

●目 次

ご使用になる前に次のことにご注意ください	2
フロントパネルの名称と機能	3
リヤパネルの名称と機能	5
ステレオ使用時の接続と注意	7
B T L使用時の接続と注意	9
特性表	11
ブロックダイヤグラム	12
故障と思われるときには	13
参考仕様	13
サービスのご依頼について	14

ご使用になる前に次のことにご注意ください



設置場所

次のような場所でご使用になりますと、音質が悪化したり故障などの原因になります。

- 直射日光の当たる場所や暖房器具のそばなど高温になる場所、または温度の特に低い場所では製品の機能を維持できない場合があります。
- 湿度の高い場所では金属部品にサビを生じることがあります。
- ホコリの多い場所ではスイッチなどの接触不良、磁気の強い場所では雑音等の発生原因になります。
- その他、振動の多い場所も避けてください。また、結露が発生した場合は、一時的に正常動作しないことがあります。

101Mは重量が61kgと非常に重いため、設置場所には十分注意してください。また、放熱のためアンプの上面、側面、後面は壁などから10cm以上離して、通風のよい場所を選んでください。



電源について

定格電圧AC100V 50/60Hzでご使用ください。

また、本機の性能を十分に発揮させるために、電源はできるだけ壁のコンセントからお取りください。やむを得ず、電源の延長コードを使用する場合は、容量にゆとりのあるものをお使いください。

◎タコ足配線や容量以下の延長コードの使用は、火災などの原因になります。また、電源コードは大切に扱ってください。特にコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。



落雷に対する注意

落雷のおそれのあるときは、早めに電源プラグを抜いてください。



セットのお手入れ

お手入れは柔らかい布でからぶきしてください。

汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめたものを少し含ませた布で軽く拭いたあと、からぶきしてください。

シンナーやベンジン、アルコールなどを使用しますと、表面の仕上げをいためてしまいます。



ケースを開けない

トップカバーや底板を開けて内部に手などを入れますと、故障や感電事故を起こすことがあります。また、本機は、内部配線の経路にいたるまで緻密に設計されています。性能を維持するためにも、ケースを開けて内部に触れるようなことはしないでください。

何か異物が入ったときは、すぐ電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。



セットの移動

セットを移動する場合は、接続コードのショートや断線を防ぐため、必ず電源プラグを抜き、他のセットとの接続コードをはずしてから動かしてください。

また、本機は重量がありますので、落としたり、ぶつけないよう十分注意してください。



故障かな?と思ったら

故障かなと思ったら、まず「故障と思われるときには」をご覧ください。意外なところで操作を誤っていることがあります。



保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合、実費をいただくこととなりますのでご注意ください。



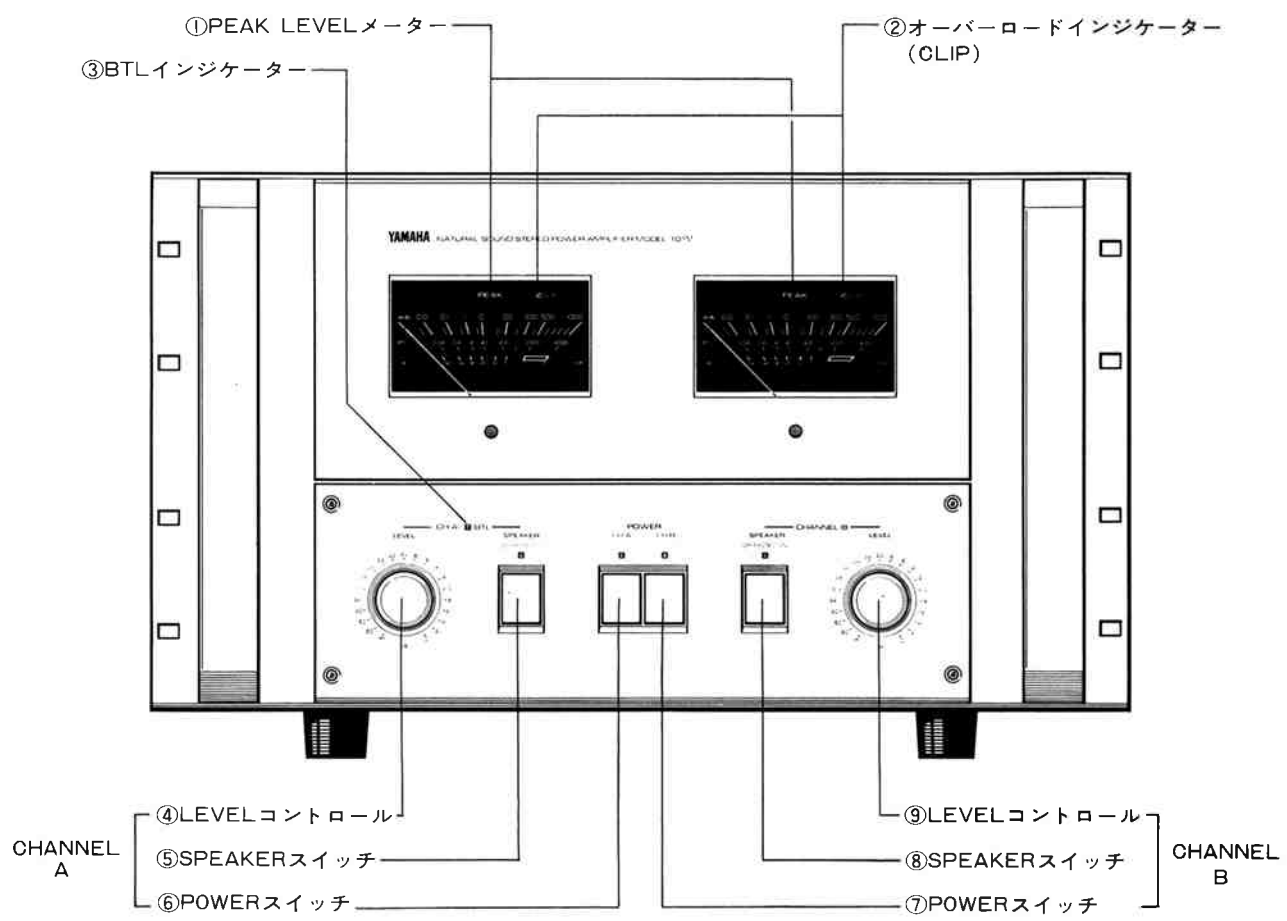
保管してください

この取扱説明書は、お読みになりました後も、保証書と共に大切に保管してください。

■その他

- スピーカー破損防止のため、機器の接続の際には、必ず本機のPOWERスイッチが両方(CH A, CH B)共OFFになっているかどうか確認してください。
- 電源を切るときは、必ず先に本機のPOWERスイッチを切ってから、プリアンプ等の電源をOFFにしてください。プリアンプの電源スイッチOFF時に雑音の出るものがあります。

フロントパネルの名称と機能



●本機は、通常のステレオ動作(500W/ch, 8Ω)と、BTL動作(モノラル1500W, 8Ω)を切替えてご使用になれます。BTLでご使用になるときは、上記①～⑦で操作します。
 なお、BTLについては8ページを参照してください。

●PEAK LEVELメーターについて

STEREO動作時の、各チャンネルごとの出力値が表示されています。
 8Ω負荷のときの数値が表示されていますので、4Ω負荷の場合は表示値の2倍、16Ω負荷の場合は表示値の1/2倍に換算した値が出力値となります。

アンプがクリップしたとき点灯します。次ページを参照してください。

BTL(MONO)動作時の出力値が表示されています。各チャンネルのメーターは同じ値を示しますので、どちらのメーターでも読取れます。
 8Ω負荷のときの数値が表示されていますので、16Ω負荷の場合は表示値の1/2倍が実際の出力値となります。



①PEAK LEVELメーター

- ステレオ動作時には、A、B各チャンネルの出力レベルをピークで表示します。その際のスケールは0~1000W/8Ωで読取ります。
- BTL動作時には、モノラルになりますので、両メーターとも同じ出力レベル（ピーク）を表示します。その際のスケールはBTL 0~4000W/8Ωで読取ります。

※PEAK LEVELメーターについてを参照。

②オーバーロードインジケータ

本機に過大な入力加わった場合、また出力端がショートされた状態で入力信号が加わった場合など、本機が過負荷状態になった場合に点灯します。

もしこのような状態になった場合には、プリアンプの出力レベルを下げたり、スピーカーコードがショートしていないかなどを確認してください。

④LEVELコントロール (CH A/BTL)

- ステレオ動作時には、CHANNEL Aの出力レベルをコントロールします。
- BTL動作時にもこのつまみで出力レベルをセットします。どの場合にも、つまみを左一杯に回すとレベルは0になり、フルパワーまで連続的にレベルセットができます。

③BTLインジケータ

リヤパネルのSTEREO/MONOの切換えスイッチをMONO (BTL接続) にすると点灯し、本機がモノラルでBTL動作中であることを示します。

⑤SPEAKERスイッチ (CH A/BTL)

- ステレオ動作時には、リヤパネルに向かって右側のスピーカーターミナル (CHANNEL A) に接続されたスピーカーシステムへの出力をON/OFFします。
- BTL動作時にも、本機に接続されたスピーカーシステムへの出力をON/OFFします。

なお、このスイッチは押した状態でOFFとなり、上のインジケータが点灯しスピーカー保護回路 (PROTECTION) が動きます。

⑥POWERスイッチ (CH A)

CHANNEL A用のパワーアンプ部の電源をON/OFFします。ONにしますと上のインジケータが点灯し、最初の数秒間は、ショックノイズからスピーカーを保護するミュート回路が働きます。(CH AのSPEAKERスイッチの上のPROTECTIONインジケータ点灯)

⑦POWERスイッチ (CH B)

CHANNEL B用のパワーアンプ部の電源をON/OFFします。ONにしますと上のインジケータが点灯し、同時にスピーカーを保護するミュート回路が働きます。(CH BのPROTECTIONインジケータ点灯)

※BTLで使用する場合は、両方のPOWERスイッチをONにします。

⑧SPEAKERスイッチ (CH B)

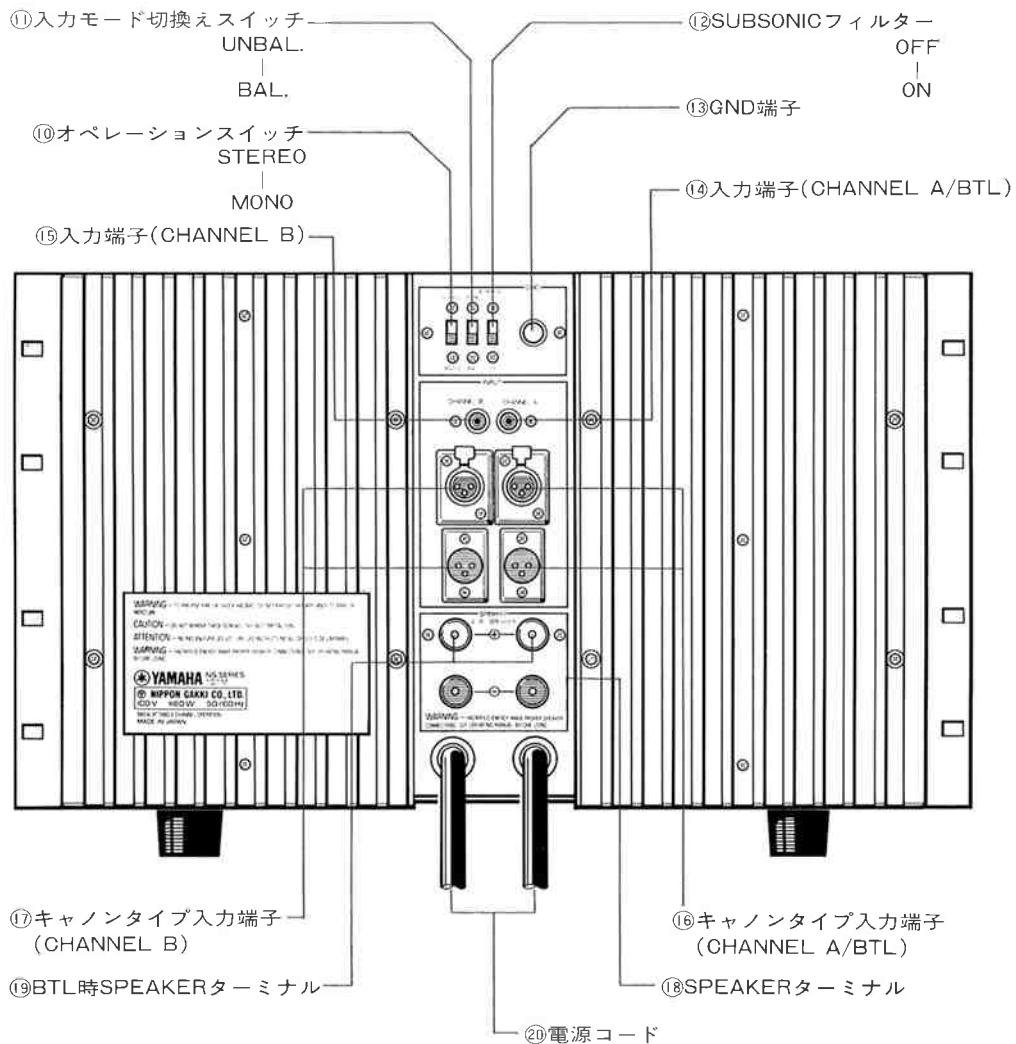
ステレオ動作時のみ動き、リヤパネルに向かって左側のスピーカーターミナル (CHANNEL B) に接続されたスピーカーシステムへの出力をON/OFFします。スイッチは押した状態でOFFとなり、上のインジケータが点灯しPROTECTION回路が働きます。

⑨LEVELコントロール (CH B)

ステレオ動作時のみ動き、CHANNEL Bの出力レベルをコントロールします。つまみを左一杯に回すとレベルは0で、フルパワーまで連続的にレベルのセッティングができます。



リヤパネルの名称と機能

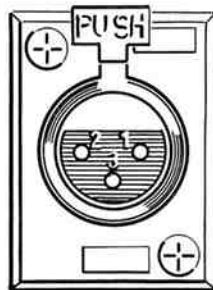


●キャノンコネクターについて

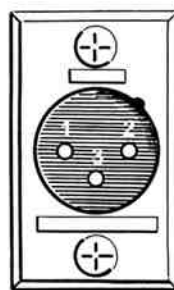
キャノンコネクターは、アメリカ系とヨーロッパ系では、端子に接続される信号の(+)側と(-)側が異なります。

また、日本国内でも、放送関係とレコード関係では異なりますのでご注意ください。

本機のキャノンコネクターは、図のようなピン構成になっています。ご使用の際は必ず確認すると共に、入力モード切換えスイッチをBAL. 側にすることも忘れないでください。



XLR-31
(凹ピン側)



XLR-32
(凸ピン側)

- ピン構成
1: アース
2: 信号(+)
3: 信号(-)
(ヨーロッパとBTS)
規格と同じ

●アメリカ(NAB)とレコード協会規格のものは、ピン番号2と3の(+)(-)が逆になります。

⑩オペレーションスイッチ (STEREO/MONO)

STEREOポジションで、本機は出力500W/ch (8Ω) の通常のステレオパワーアンプになります。

MONOポジションでは、フロントパネルのBTLインジケータが点灯し、本機はA、B両チャンネルのアンプがBTL接続され、出力1.5kW (8Ω) のモノラルパワーアンプになります。

注. MONOポジションにすると、本機は1.5kWの大出力アンプになりますので、このスイッチを切替える際は、LEVELを最小にしてからにしてください。スピーカーをこわすおそれがあります。

⑪入力モード切換えスイッチ (UNBAL./BAL.)

- プリアンプからの出力をピンプラグで、⑭、⑮の入力端子に接続する場合はこのスイッチをUNBAL.側にします。
- プリアンプからの出力をキャノンコネクタで、⑯、⑰の入力端子に接続する場合はBAL.側にします。
(⑯、⑰項参照)

⑫SUBSONICフィルタースイッチ

ONにしますと、7Hz以下の可聴範囲外の超低域ノイズを、12dB/octでカットし、レコードのソリなどによるウーファークのコーン紙のフラツキ (歪の原因) を防止します。

⑬GND端子

本機のグラウンドアース端子です。ご使用の際は8ページの注意を参照してください。

⑭入力端子 (CHANNEL A/BTL)

- ステレオ使用時には、CHANNEL Aへの入力端子となります。プリアンプのLch出力をこの端子に接続します。
- BTL使用時には、本機の受け持つチャンネルの入力端子となります。

使用に関しては⑩項を参照してください。

⑮入力端子 (CHANNEL B)

ステレオ使用時にのみ、CHANNEL Bへの入力端子となります。プリアンプのRch出力を接続します。(⑩項参照)
(BTL使用時には、直接接続には関係ありません。)

⑯キャノンタイプ入力端子 (CHANNEL A/BTL)

上がXLR-31タイプ、下がXLR-32タイプキャノンコネクタで、主に本機を業務用として使用する場合の入力端子です。なお、上下のコネクター間は並列接続になっています。入力モード切換えスイッチをBAL.側にして使用します。

- ステレオ使用時には、CHANNEL Aへの入力端子になります。Lch用出力を接続してください。
- BTL使用時には、本機の受け持つチャンネルの入力端子になります。

⑰キャノンタイプ入力端子 (CHANNEL B)

⑯と同様の入力端子で、ステレオ使用時、CHANNEL Bへの入力端子になります。Rch用出力を接続してください。

⑱SPEAKERターミナル(ステレオ使用時)

右側縦2つがCHANNEL A用、左側縦2つがCHANNEL B用のSPEAKERターミナルです。

上2つ(白色・灰色)が+側、下2つ(黒)が-側で、ネジによる圧着式ターミナルです。(8ページ参照) また、スピーカーの適合インピーダンスは4~16Ωとなっています。

⑲BTL時SPEAKERターミナル

BTL使用時には、上2つ(白色・灰色)がSPEAKERターミナルになります。その場合の+側(白色)はリヤパネルに向かって右、-側(灰色)は左となります。

この場合のスピーカーの適合インピーダンスは8~16Ωです。

⑳電源コード

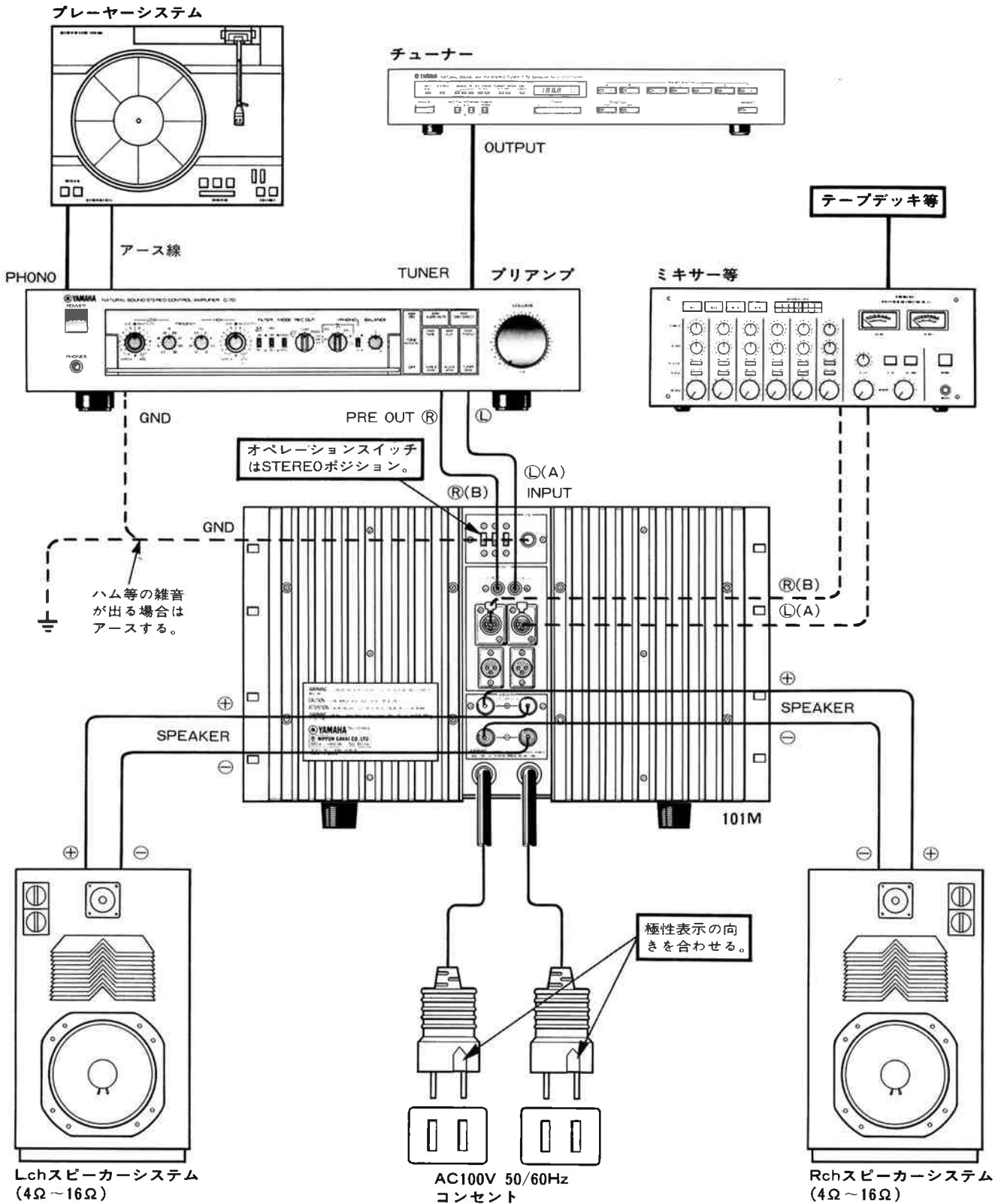
リヤパネルに向かって右側でCHANNEL A用パワーアンプに、左側でCHANNEL B用パワーアンプに電源を供給するという完全モノラル構成となっています。

また、電源プラグにはトランス巻始め側を示す極性表示がしてあります。コンセントに接続する際は、2つのプラグの極性の向きを合わせて接続しますと、音質面で有利です。プリアンプの電源プラグに極性表示がある場合も、同様です。(8ページの電源の接続参照)

◎本機は消費電力が1160Wと大きいため、電源コンセントは容量を確認し、できるだけ本機専用としてください。

ステレオ使用時の接続と注意

●各機器の電源を切ってから接続してください。



■入力の接続

●入力端子

入力端子は2タイプあります。

- ピンコードをご使用になる場合は、左右をよく確認して接続してください。また、ピンコードはできるだけ良質のものをお使いください。

この場合は、入力モード切換えスイッチをUNBAL.側にします。

- キャノンコネクタをご使用になる場合は、5ページのキャノンコネクタについてを参照し、適合したものをお使いください。

接続は、接続機器のコネクタのタイプ（オス/メス）により上下を使い分けてください。

また、この場合は、入力モード切換えスイッチをBAL.側にします。

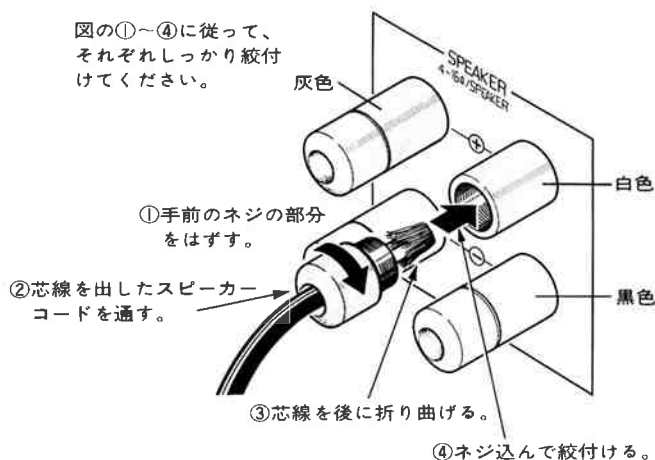
●GND端子

アース端子です。ハムや雑音が出る場合には、この端子をアースするか、プリアンプ等のGND端子と接続してみてください。

■スピーカーシステムの接続

2組のスピーカーコードを左右、両チャンネルの位相を確認して、4つのSPEAKERターミナルにそれぞれ間違いないように接続してください。ここで、スピーカーコードはできるだけ良質のものをお使いください。

SPEAKERターミナルは、ネジによる圧着式になっていますので、図を参照しスピーカーコードをしっかりと締付けてください。



また、定期的にターミナルを点検し、ゆるみがないかどうか確認するよう心がけてください。

なお、オペレーションスイッチがSTEREO側になっていることを必ず確かめてください。

- ◎スピーカーのインピーダンスは4～16Ωのものに適合します。スピーカーを何組も使用する場合は、合成インピーダンスが必ず4Ω以上になるようにご注意ください。
- ◎BTLオペレーションでご使用になる際の接続方法は、BTLについてを参照してください。

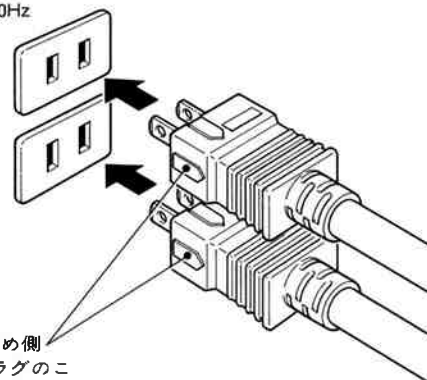
■電源の接続

まず本機のPOWERスイッチがCH A、CH B両方共OFFになっていることを確認してください。（ONの状態では電源の接続をしますと、本機に悪影響を与えることがあります。）

電源プラグは、できるだけ壁などのコンセントを使用し、本機専用コンセントとして使ってください。

また、電源プラグの極性表示に注意し、2つのプラグの極性の向きを合わせて接続してください。

AC100V 50/60Hz
コンセント



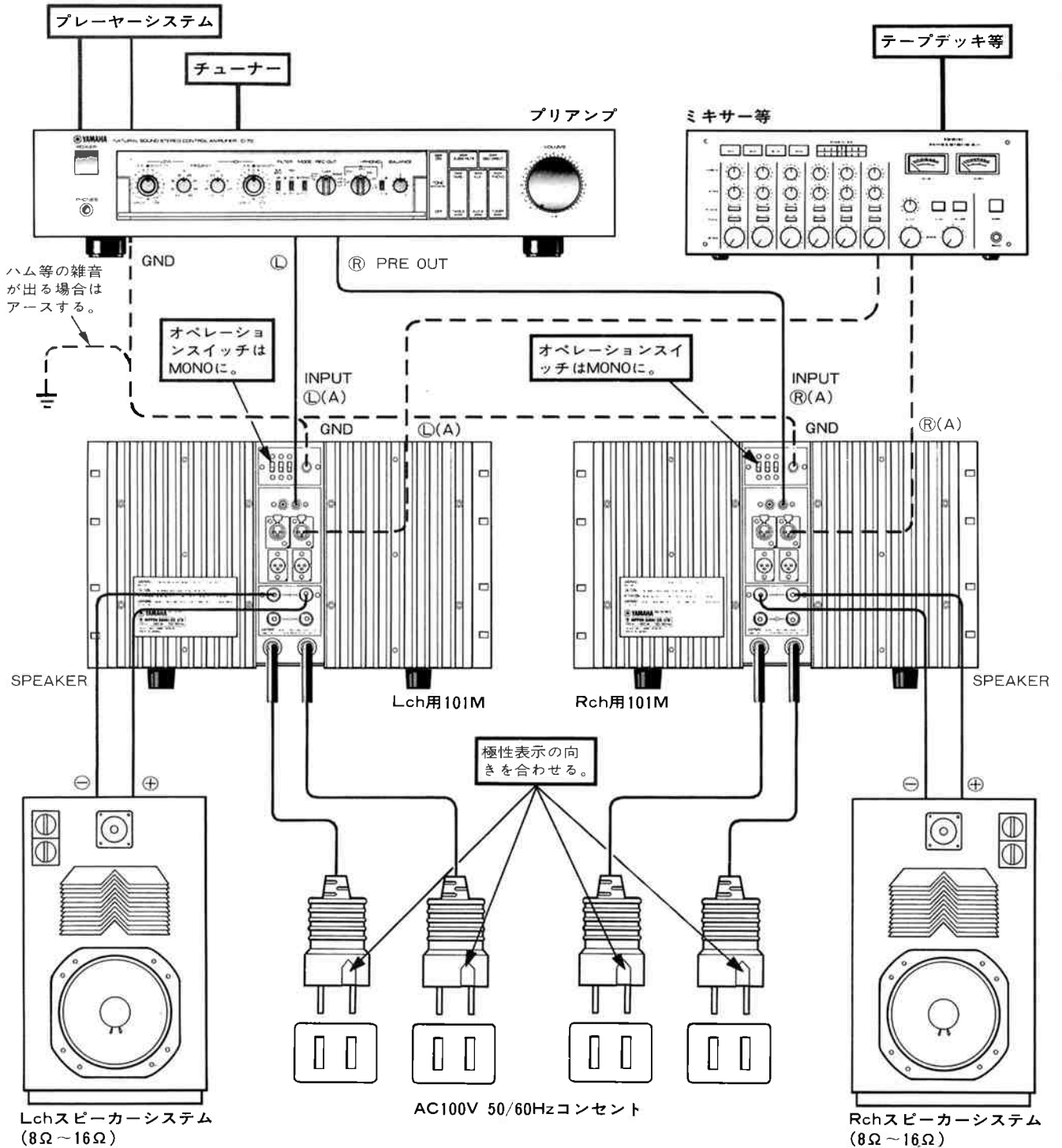
トランス巻始め側
2つの電源プラグのこのマークを、同じ側に合わせてコンセントに接続します。

（プリアンプ等の電源プラグに極性表示があれば、同様に同じ側に合わせて接続します。）

- ◎本機は、消費電力580W/chと大電力を消費しますので、他のアンプ等のサービスコンセントなどは絶対にご使用にならないでください。また、壁のコンセントが遠くて、やむを得ず電源の延長コードを使用する場合は、容量の大きな（10A、125V以上）のものを単独でご使用ください。

BTL使用時の接続と注意

●各機器の電源を切ってから接続してください。



■BTL (Balanced Transformer Less)

本機は、リヤパネルのオペレーションスイッチをMONO側にすると、CH A、CH Bの両チャンネルのパワーアンプがBTL接続され、1500W (8Ω)出力のモノラルパワーアンプとなります。

ここで、BTLとは、互いに逆位相でドライブされた2組のSEPP回路*の出力点間に、負荷(スピーカー)を接続して動作させる電力増幅回路をBTL方式といいます。原理的に電圧利用率が高いことから、低電圧電源で能率的にハイパワーを引出すことができます。

本機では、この2組のSEPP回路を各々単独に働かせてステレオアンプとしたり、2組を合わせてBTLとして働かせてモノラルアンプとしたり、スイッチによって切換えて使用できるよう設計されています。

従って、本機をBTLで使用する場合、ステレオとするためにはもう一台必要となります。

■BTL使用時の接続と注意

●入力端子

基本的にはステレオ使用時と同じですが、入力端子は、ピンコードを使用する場合も、キャノンコネクターを使用する場合も、2台の101MのCHANNEL A側(リヤパネル向かって右側)入力端子のみを使用します。

入力モード切換えスイッチのセットは、ステレオ使用時の場合と同じです。

●GND端子

ステレオ使用時と同じです。

●スピーカーシステムの接続

BTL使用時のSPEAKERターミナルには、101M 2台とも、上2つの白色と灰色のターミナルを使用します。この場合リヤパネルに向って右側(CH Aの+・白色)が+端子に、左側(CH Bの+・灰色)が-端子になります。

位相を確認して、しっかりと接続してください。

◎BTL接続では、出力にアース電位のないフローティング出力ですので、残りの2本の黒色のターミナルには何も接続しないでください。

またこの場合は、インピーダンス8~16Ωのスピーカーを接続してください。

■電源の接続

本機のPOWERスイッチが両方共(CH A、CH B)OFFになっていることを確認してください。

BTL接続の場合モノラルですが、電源はCH A、CH B両方共接続し、使用時には両方のPOWERスイッチをONにして使用します。

極性表示、電源のとりかたについては、ステレオ使用の場合と同じです。

■その他

①LEVELコントロールをCH A、CH B両方共左一杯(∞)に絞って、リヤパネルのオペレーションスイッチをMONO側にしてください。

次に、POWERスイッチを両方共ONにしたとき、BTLインジケーターが点灯することを確認してください。保護回路の動作はステレオ使用時と全く同じです。

②本体に耳を近づけると、トランスのうなりが聴こえることがありますますが異常ではありません。

*SEPP回路……Single Ended Push-Pullの略。二つの増幅素子のプッシュプル動作で、直流的(電源)には直列接続で、交流的(信号)には並列接続になり、出力が一つなのでこう呼ばれる。
インピーダンス8Ωのスピーカーシステムに直接接続できる利点があり、トランジスター式パワーアンプの出力段に多く使われている。



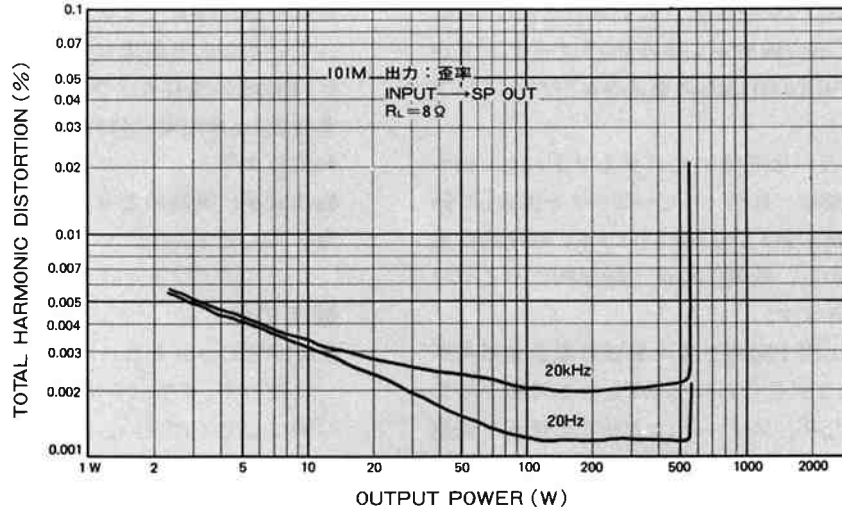
特性表

■ 出力電圧：全高調波歪率特性

● STEREO

動作時

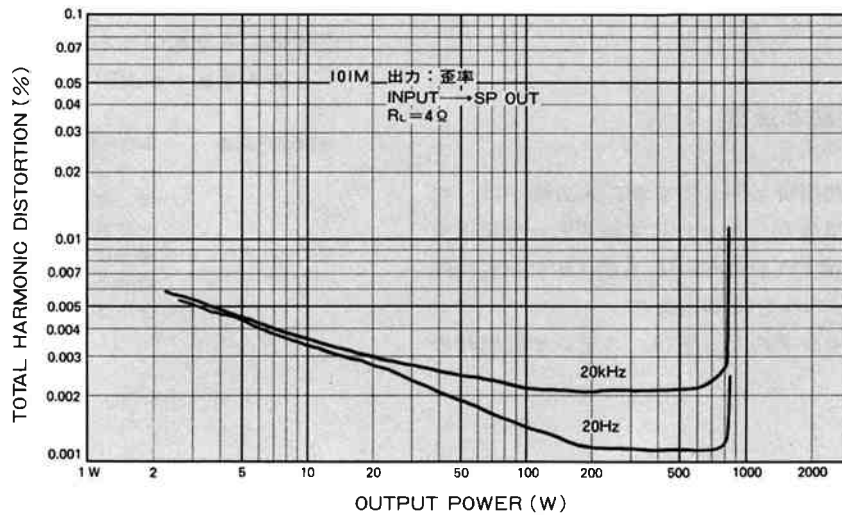
($R_L = 8\Omega$)



● STEREO

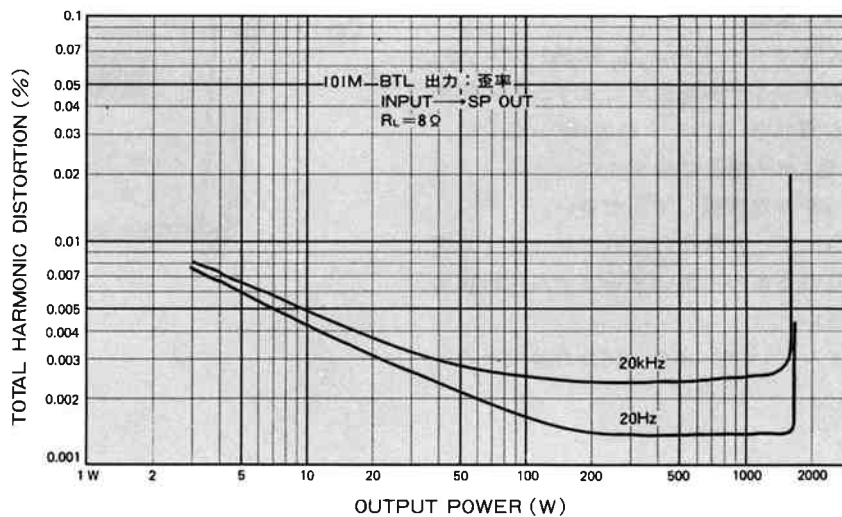
動作時

($R_L = 4\Omega$)

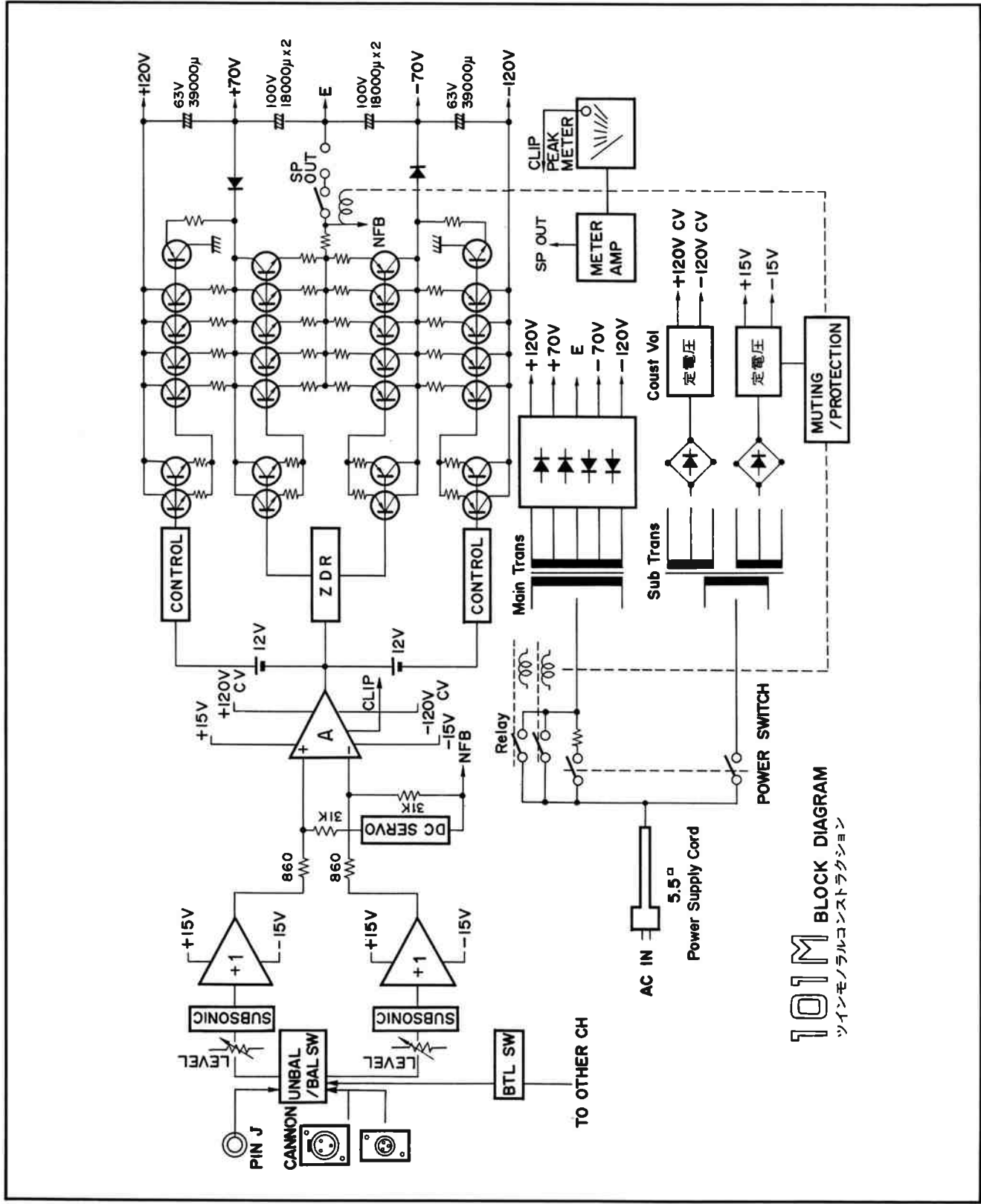


● BTL動作時

($R_L = 8\Omega$)



ブロックダイアグラム



故障と思われるときには/参考仕様

ご使用中になにか異常が認められました場合は、下記の事項をご確認ください。それでも直らない場合は、電源プラグを抜き、お買い上店か最寄りの弊社サービス拠点までご連絡ください。

症 状	原 因	処 置
POWERスイッチをONにしても電源が入らない。	電源コードのプラグが電源コンセントにしっかり差し込まれていない。	電源プラグを電源コンセントにしっかり差し込みなおしてください。
左右スピーカーあるいは左右いずれかのスピーカーから音が出ない。または小さい。	コントロールアンプとパワーアンプ、またはパワーアンプとスピーカーの接続が不完全。	接続を確認してください。
	LEVELコントロールが左右あるいは片側だけ絞られている。	LEVELコントロールを左右同じに調整してください。
	BTL使用時、POWERスイッチが片側OFFになっている。	BTL使用時も、POWERスイッチは両方 ON にします。
	入力モード切換えスイッチ、オペレーションスイッチ (STEREO/MONO) 等が正しくセットされていない。	ご使用の入力端子、ステレオ使用、BTL 使用に合わせて、スイッチを正しくセットしてください。POWER スwitchを両方共 OFF にしてから確認してください。
再生中に突然音が出なくなった。	スピーカー出力端子に直流電位が発生したため、スピーカー保護回路が動作している。	パワーアンプの電位が0Vになると、リレーが働き回路がつながります。 パワーアンプのPOWERスイッチをOFFにし、しばらくしてからONにします。
低音のない不自然な再生音で、音像が定位しない。	パワーアンプとスピーカーの位相 (+、-) が合っていない。	パワーアンプの位相 (+、-) を合わせて接続しなおしてください。特にBTL使用時には、十分確認してください。
コントロールアンプの VOLUME をあげても、音量が余り大きくならない。	LEVELコントロールが絞られている。	左右のLEVELコントロールを調整し、適当な音量にしてください。
プログラム再生時に「ブーン」というハム音が入る。	ピンプラグの接続不良	ピンプラグをしっかり差し込みなおしてください。
	本機とコントロールアンプ等のGND端子を接続してください。	

- 本機には万全な保護回路が内蔵されています。ご使用中に動作が停止したりする場合は、PROTECTION インジケータが点灯して保護回路が動作していることを示します。

■参考仕様

定格出力

STEREO 8Ω (20Hz~20kHz, THD 0.003%) ……500W + 500W
4Ω (20Hz~20kHz, THD 0.01%) ……750W + 750W
BTL (MONO) 8Ω (20Hz~20kHz, THD 0.01%) ……1500W

パワーバンド幅

250W/8Ω、THD 0.1% ……10Hz~100kHz

入力感度/入力インピーダンス

500W/8Ω ……1.73V/25kΩ

周波数特性

8Ω、1W ……10Hz~100kHz ±₃dB

サブソニックフィルター

……fc=7Hz, -12dB/oct

SN比 (IHF A, R_L=8Ω)

……122dB

全高調波歪率

20Hz~20kHz, 250W/8Ω ……0.003%以下

1kHz, 250W/8Ω ……0.0005%以下

混変調歪率

250W/8Ω, 50Hz: 7kHz ……0.002%以下

ダンピングファクター (1kHz, R_L=8Ω) ……500

使用1次ヒューズ ……15A, 125V

入力モード ……平衡増幅/不平衡増幅SW切換

定格電源電圧、周波数 ……AC100V, 50/60Hz×2

定格消費電力 (電気用品取締法) ……1160W (両ch)

外形寸法 ……482W×264(279)H×441(481)Dmm

()内は脚高、取手部込み

重量 ……61kg

※参考仕様及び外観は、改良のため予告なく変更されることがございます。

サービスのご依頼について

●サービスのご依頼・お問合せは、お買い上げ店、またはYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお願い致します。

■保証期間

お買い上げ日より1年間です。

■保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

■補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

○性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に「故障ではないか」とお思いになる点がございましたら、まず本文中の「故障と思われるときには」(13ページ)をお読みになってください。意外と故障でない場合があるものです。

■持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。)

■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

お客様ご相談窓口	
東京電音サービスセンター	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03) 255-2241
東京ステレオサービスステーション	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03) 255-2241
東京電音サービスステーション	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03) 255-2241
横浜電音サービスステーション	〒231 横浜市中区本町6-61-1 TEL (045) 212-2223
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 (シルバーボールビルヤマハ新潟センター2F) TEL (0252) 43-4321
大阪電音サービスセンター	〒564 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
大阪ステレオサービスステーション	〒550 大阪市西区江戸堀1-9-1(肥後橋センタービル6F) TEL (06) 445-6421
大阪電音サービスステーション	〒564 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市南新町6-1(岡田ビル2F) TEL (0878) 33-2233
名古屋電音サービスセンター	〒460 名古屋市中区栄1丁目8-7 TEL (052) 231-2432
名古屋電音サービスステーション	〒460 名古屋市中区栄1丁目8-7 TEL (052) 231-2432
北陸電音サービスステーション	〒921 金沢市泉本町7-7 TEL (0762) 43-5341
浜松電音サービスステーション	〒430 浜松市東伊場2-14-1 TEL (0534) 56-9211
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2137
九州電音サービスステーション	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2134
広島電音サービスステーション	〒731-01 広島市安佐南区祇園町西原2205-3 TEL (082) 874-3787
北海道電音サービスセンター	〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621
北海道電音サービスステーション	〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621
仙台電音サービスセンター	〒980 仙台市大町2丁目2-10 (住友生命仙台青葉通ビル) TEL (0222) 22-6144
仙台電音サービスステーション	〒983 仙台市卸町5丁目-7(卸商共同配送センター内) TEL (0222) 96-0249
お預り品修理拠点	
東京電音サービステポ	〒171 東京都練馬区高野台2-3-10 TEL (03) 904-4986 (03) 904-4901
大阪電音サービステポ	〒564 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
名古屋電音サービステポ	〒460 名古屋市中区栄1丁目8-7 TEL (052) 231-2432
九州電音サービステポ	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2134
北海道電音サービステポ	〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621
仙台電音サービステポ	〒983 仙台市卸町5丁目-7(卸商共同配送センター内) TEL (0222) 96-0249
本 社	
営業技術部電音サービス課	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL (0534) 65-1111

■日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL(0534)65-1111
東京支店	〒104 東京都中央区銀座7-9-8/パールビル内 TEL(03)572-3111
銀座店	〒104 東京都中央区銀座7-9-14 TEL(03)572-3131
横浜店	〒220 横浜市西区南幸2-15-13 TEL(045)311-1201
大阪支店	〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心斎橋プラザビル東館8.9F TEL(06)251-1111
心斎橋店	〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39 TEL(06)211-8331
神戸店	〒650 神戸市中央区元町通2-188 TEL(078)321-1191
名古屋支店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL(052)201-5141
九州支店	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2151
小倉店	〒802 北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL(093)531-4331
北海道支店	〒064 札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター TEL(011)512-6111
仙台支店	〒980 仙台市大町2丁目2番10号 TEL(0222)22-6141
広島支店	〒730 広島市中区基町13-13/平和生命広島ビル8F TEL(082)221-4122
浜松支店	〒430 浜松市田町32 TEL(0534)54-4115
浜松店	〒430 浜松市銀治町122 TEL(0534)54-4111
海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・シンガポール・フィリピン

